



花とみどり

Vol. **62**
2009.2.16

CONTENTS

- 生産者紹介 2
- Topics：みどりのモデル展示事業がスタート 3
- ケブカトラカミキリの被害、センターの業務紹介 4



ミヤビ



イチヨウ



ウヨソ



カンヒザクラ



サンギヨウカンザクラ



アエベニザクラ



ウユウツマザクラ



ヒマラヤザクラ

花と緑の振興センターでは、120品種ほどのサクラを展示しています。

一般的には剪定せずに大きく育てるサクラですが、コンパクトな品種を選べば、あまり広くない庭に植えたり、鉢植えて楽しんだりできます。



生産者紹介

第29回埼玉農林業賞受賞者

森田 博氏

(推薦区分：個別経営体の部
経営類型：施設花き)

さいたま市見沼区において、フリージア切り花及びボケ枝物の高品質生産と、地域のニーズに対応した花壇苗生産の組み合わせによる、花きの周年出荷を行っています。地域の先駆的技術者として地元花き生産の振興を図り、さらに地元の教育活動に花き生産を通じて積極的に関与していることを評価され、受賞されました。



1. 経営・技術の特徴

1～4月上旬まで出荷が続く主要品目のフリージアは、8割が予約相対取引であることからわかるように、市場から高い評価を得ています。それは、茎が硬く葉肉が厚く、着花数が多くて、先端の小さな蕾までも最後までしっかりと開花します。このような高品質を保持する技術は、まず、球根産地に自ら出向いて品種を検討し、直接優良な球根を導入することから始まります。そして、栽培においては、良質な土づくりを心がけ、ハウス内の温度管理に細心の注意を払い、かん水や施肥等、きめ細かい管理を行っています。

5～12月に生産・出荷している花壇苗は、「地元の花壇を彩る花は、地元の産地から」の思いを胸に、市内の公共施設等からの注文に対応して生産し、安定的な出荷先の確保に繋がっています。生育の揃いや納期に開花期を合わせるなど、満足してもらえる商品作りに力を注いでいます。

2. 地域への貢献

地域花きの先駆的技術者として多くの役職を担い、技術的な指導のみならず、さいたま市の花き生産の振興のため、販売の改善やPRによる振興を図り、都市農業の活性化を目指した活動を積極的に行っています。

また、忙しい作業の傍ら、率先して小学生の社会科見学を受け入れたり、中学生の総合学習の指導をするなど、花き栽培を始めとした農家の仕事について紹介し、子供たちの農業への理解を促進しています。子供たちが興味関心を持つような、様々な工夫を凝らした指導や、時として躰に関わる教えなど、子供たちの情操教育の一役を担い、心のかもった対応は高く評価されています。

3. これから

生産現場と消費地が密着したこの見沼区における花き生産は、多くの役割と可能性を秘めており、今後も地域と共に様々な取組を通じて「さいたまの花」を発展させて行こうと思案をめぐらせています。

第30回埼玉農林業賞受賞者

「さにべる」
グリーンハウス代表 間室 照雄氏

(推薦区分：個別経営体の部
経営類型：花き単一〈花き鉢物〉)

吉見町でポインセチアを中心に、各種花き鉢物、野菜苗物の生産・販売を手がけ、地域に密着した企業的な花き経営に取り組んでいます。さらに、各種研究会の立ち上げや、消費者に対する啓蒙活動に尽力し、多方面から花き産業の発展に関与していることを評価され、受賞されました。



1. 経営・技術の特徴 ～販売重視の経営戦略～

地域に密着した経営を目指し、地域の消費者が必要とする商品に必要な情報を付加して提供することをモットーにしています。年間を通して品質の高い商品作りに尽力し、信頼される店として、「地域一番店」を目指しています。そのため、経営分析を重視し、販売品目や生産数量を「数字」を基に決定しています。効率的な生産・販売のため、農地の集約化をはかり、安定した品質と生産量の確保のため、生産管理方法のマニュアル化を進めました。

2. 花き産業への貢献

生産の主力品目であるポインセチアの品質向上と普及のため、「日本ポインセチア協会」の設立に尽力し、現在も事務局長として活躍しています。また、地元比企地域の鉢物生産の発展を目的に「埼玉西部鉢物研究会」を組織し、先進地視察研修や会員相互の交流会を企画するなど、地域花きの先駆的技術者として貢献しています。さらに、農業関係の学生や中国の研修生の受け入れなど、地域を越えた後継者育成に力を惜みず注いでいます。

一方、小売業者や消費者を対象に、花き等植物の栽培について講義をし、情報発信するなど、消費拡大に繋がる啓蒙活動にも積極的に取り組んでいます。

3. これから

「花はこころのごはんです」、「野菜はこころとからだの栄養源」をキーワードに、「市民農園クラブ」のネットワーク作りから、市民農園的経営を実現したいと熱く語っています。花や野菜苗を、一方的に供給する商品としてのみ考えるのではなく、地域の人々と共に歩み、個々の楽しみ・地域への貢献を共有する手段として活用し、「さにべる」を核とした地域の生活の中に植物の広がりを夢見ています。



埼玉県みどりのモデル展示事業が スタート

県では、豊かな自然を次の世代に引き継ぐため、自動車税収入源の1.5%相当額を積み立て、「彩の国みどりの基金」(約14億円)を平成20年4月に創設し、森林の保全や身近な緑の保全と創出など、みどりの再生を推進しています。

その一環として、街のパブリックスペース(民間の所有でも可)の屋上や舗装面等通常の緑化が困難なところに、県産の花植木を使い安行四季彩マット等県が開発した緑化技術を使って緑化し、地域住民等と協働で管理等を行うことにより、今後の都市緑化を推進するためのモデルとして活用する事業を進めています。

原則として、人口30万以上の市の市街化区域内で、緑化面積が300㎡を超えるものが補助の対象となります。事業費の内、緑化素材に対して1カ所あたり600万円の補助が受けられます。

花と緑の振興センターでは、計画策定から事業の実施にあたり事業者に助言指導を行い、事業の円滑な推進に貢献し、2カ所は既に完成しております。

今後は、引き続き事業者に助言指導を行うとともに、屋上緑化の管理に関する研修等に取り組みます。

また、モデル展示の管理に協働して参加するボランティアの養成と技術的支援を進めて参ります。



株式会社そごう川口店



武南病院

●事業の実施状況及び今後の予定

区分	H20	H21	H22	計
モデル展示箇所及び予定箇所	3カ所	2カ所	2カ所	7カ所
	株式会社そごう川口店(川口市) 医療法人社団大成会武南病院(川口市) 東京ガス株式会社埼玉支店(さいたま市)	未定	未定	



埼玉県ブース

「ジャパンフラワーフェスティバルinこうち」に出展

平成20年5月16日~18日に高知市・ちばさんセンターで開催された「ジャパンフラワーフェスティバルinこうち」に、埼玉県を代表して参加しました。埼玉の木「ケヤキ」と花「サクラソウ」、安行四季彩マットによる空中庭園等、いずれも目を引く展示に、地元への関心は高く、埼玉県ブースは終日人ばかりでした。より多くの方々に、埼玉県の規模・伝統を誇る花き生産のPRができました。



キウイフルーツの収穫体験

ウメやブルーベリー、キウイフルーツなどの収穫体験

園内には、数多くの果樹類が植栽されています。本年は、観察だけではなく、果実の収穫を念頭に適切な管理を行った結果、立派な果実に成長しました。これらの有効活用策として、地元川口市の福祉施設の皆様に収穫作業を体験していただき、ジャム等の加工材料として利用いただきました。初めての試みでしたが、大変好評で、今後も実施していきたいと思っております。

イヌマキを枯らすケブカトラカミキリの被害について

ナギやイヌマキの生木樹皮下を食害し枯らしてしまうケブカトラカミキリ(*Hirticlytus comosus*)は、屋久島、種子島、九州、四国(南端)に分布していますが、緑化木の移動や、温暖化の影響に伴い分布の拡大が懸念されていました。このような中、千葉県農林総合研究センターから、病害虫発生予察特殊報(県内で初めて発生を確認した場合に発表)が平成20年11月28日に発表され、本県でも発生の可能性が高まってきました。

特殊報によると、「平成20年11月、^{そうさ}匝瑳市のイヌマキ栽培ほ場で、衰弱木や枯損木が発生し、農林総合研究センターに持ち込まれた被害枝から、ケブカトラカミキリ成虫が確認された。現地調査の結果、被害は植木畑や民家の生け垣でも発生していることが確認された。」とのこと。ケブカトラカミキリは、成虫の体長10mm前後で全体が白色ないし淡褐色の直立長毛で覆われ、幼虫には足がなく頭部は黄褐色、胸腹部は乳白色で扁平な形をしています。被害は直径3cm程度の苗木にも発生し、幼虫が生木の樹皮下を不規則に食害することにより発生します。越冬は蛹室内で羽化した成虫の状態

で行い、翌春4~5月に羽化脱出しすぐに交尾し産卵を開始します。本種による被害かどうかを識別するには、針葉の退色や部分的な枝枯れ、樹幹部や枝に開いた直径3~4mm程度の成虫の脱出口、枯損木樹皮下の不規則な食害痕の有無により判断します。

防除対策としては、樹木の移動に際しては被害木が混入しないように十分注意することが重要です。強度の整枝剪定や植え傷み、他害虫の被害などにより木が弱ると被害が発生しやすくなるので樹木を健全に維持するよう努めましょう。また被害が発生した場合は、樹皮下の幼虫を早期に発見し、成虫の脱出期以前に伐採し焼却処分する必要があります。



ケブカトラカミキリ(成虫)



被害痕と脱出口

(千葉県農林総合研究センター提供)

当センターの業務紹介

当センターは花植木等に関する様々な業務を行っていますがこのコーナーでは生産者に関係する内容を紹介します。

●ホームページによる植木類の情報発信

情報誌を発行するほか植木類を購入できる社園リスト、売物・買物情報の提供

●優良穂木の提供

ウメ、ツバキ、コニファー等の多くの品種を保存し、常時生産者に穂木を提供

●種苗登録の技術支援

新たな品種について要請により種苗登録までのデータ作成等の技術支援

●生産者団体等への研修、講座の開催

花植木に関する専門研修や造園を志向する生産者に実技指導を実施

●輸出盆栽生産者への支援

輸出振興のため病害虫防除等の検疫情報提供と技術支援



輸出盆栽の検査補助



講座の開催



造園研修

Information **花とみどり**

平成21年2月16日発行

発行所/埼玉県花と緑の振興センター

発行人/埼玉県花と緑の振興センター 所長 関根家松

〒334-0059 埼玉県川口市安行1015

TEL 048-295-1806 FAX 048-290-1012

HP <http://www.pref.saitama.lg.jp/A06/BQ30/index/ichi.htm>

E-mail h951806@pref.saitama.lg.jp